

# 斑点米カメムシ類情報第1号

令和4年7月1日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

**出穂2～3週間前までに畦畔の除草、出穂前後から穂揃期に  
薬剤散布で防除を実施しましょう**

## 1 発生状況

6月下旬県内100ほ場で行った水田周辺の畦畔雑草における20回すくい取り調査において、斑点米カメムシ類の捕獲数は26.57頭（平成13.37頭、前年11.87頭）とやや多い状況です（表1）。特に、カスミカメ類の捕獲数は26.22頭（平成13.01頭、前年11.79頭）と過去10年で2番目に多い状況です。

予察灯における誘殺数は、弥富市と西尾市でやや多く、大口町、長久手市及び豊川市では平成並の状況です。

表1 斑点米カメムシ類の6月下旬畦畔すくい取り調査結果（1ほ場あたりの平均捕獲虫数）

種類	発生量	本年	平成
ホソハリカメムシ	並	0.15	0.15
クモヘリカメムシ	やや少	0	0.11
シラホシカメムシ類	やや多	0.14	0.08
イネカメムシ	並	0.01	0.01
カスミカメ類	やや多	26.22	13.01
ホソナガカメムシ類	並	0.02	0.04
ミナミアオカメムシ	並	0.03	0.14
合計	やや多	26.57	13.37

四捨五入の関係で数値の合計が合わない場合があります。（平成：平成24年～令和3年の平均値）

## 2 防除対策

斑点米カメムシ類は、主に水田畦畔などに生えるイネ科雑草の子実を餌に増殖するので、**出穂2～3週間前までに除草**を徹底しましょう。ただし、出穂直前の除草は本田にカメムシを追い込むおそれがあるため、注意しましょう。また、水田内で穂をつけたヒエ類なども発生を助長するので除去しましょう。

畦畔や水田内をよく観察し、カメムシ類の発生が多い時は**出穂前後から穂揃期に表2を参考にして薬剤防除**を実施し、その後も発生が多い場合は7日から10日後に再度防除しましょう。

また、使用する薬剤により散布適期が異なるので注意しましょう。

表2 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボンEW	収穫14日前まで	3回以内	3A
キラップフロアブル			
キラップ粒剤	収穫14日前まで	2回以内	2B
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤			
スタークル液剤10			
スタークル／アルバリン粒剤	収穫7日前まで	3回以内	4A
スタークル豆つぶ			

キラップ粒剤の散布適期は、出穂10日前から出穂期までなので注意する。

成分ごとの総使用回数に注意しましょう。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/2021/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/2021/mechanism_irac03.pdf)を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。